

# さくら市男女共同参画情報紙

らしい

第30号  
2023.1.31

あなたらしく  
生きられる  
社会を目指して

ゆう〜

LIKE YOU

+\*+ \*+\*

ちよどい!  
さくら市   
SAKURA CITY



## さくら市議会議員との意見交換会を開催しました

R5.3.1現在のさくら市男女共同参画データ  
行政区長→75行政区のうち女性会長3名

市議会議員→18人のうち3名

# さくら市男女共同参画推進委員会とさくら市議会議員との 男女共同参画に関する意見交換会

令和5年1月31日(火)、本年度のテーマである地域コミュニティに関する問題について、日頃より地域に密着して活動をされているさくら市議会議員と意見交換を行いました。意見の一部をご紹介します。



## テーマ ①

### 自治会・防災組織での 男女共同参画

政策決定・意思決定の場に女性がいることが大事。さくら市は自治会長の女性が少ない。防災組織では特に避難所は女性リーダーが必要だと思う。

女性がリーダーとなる制度や仕組みを整えれば女性が意思決定の場に入っていくことを後押ししてくれると思う。(例えば行政区の副会長を男性1人・女性1人選出する等)

制度作りは議会が先頭切ってやっていきたい。コミュニティ活動や防災組織についてはワークショップ等で立場関係なく議論することも大切。

東日本大震災の時に市から炊き出しを依頼されたが、リーダーは女性でも男性でも幅広い視野を持つ人がいいと感じた。性差は仕方ない部分もあるので、自分ができることを精一杯やるのが大事ではないか。

## テーマ ②

### 地域での孤立について

(シングルマザー・ファザー・ひきこもり・高齢世代の1人暮らしに対してできることは)

高齢者の1人暮らしについて、立場上地域を歩くことが多いので気にかけるようにしている。もし数日間新聞を取っていないことに気づいた時は民生委員につなぐなどしている。

ひきこもりに関しては、家族が動いても本人がその気にならないと難しい問題であり介入できない部分も多いと感じている。

内閣府の調査で、相談先が一つでもあれば孤独感は改善されるという結果を見た。どんなことでも相談できる地域づくりや相談先を周知徹底することが大切と感じる。

子が不登校になった時、外を歩いている時に声をかけてもらったり、公共施設等にさりげなく不登校に関する読み物や資料が置いてあったことに励まされた。

普段から顔の見える関係を作ることによって地域での孤立を防ぐことができると感じる。

初めての試みでしたが参加者全員が自分の立場から自由な雰囲気での意見交換ができ、大変有意義な企画でした。今後もテーマを変える等別の切り口で男女共同参画の意義を考えていければと思います。(大橋委員)

## テーマ ③

### 多文化共生

(LGBTQの方や外国人も暮らしやすいさくら市を目指して)

LGBTQに関しては、施設面ではユニバーサルに使えるトイレを増やして欲しい。温泉についても個室があればいいと思う。学校の更衣室等で配慮する必要があるらば対応して欲しい。

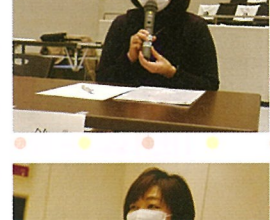
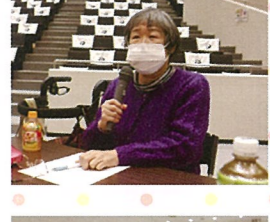
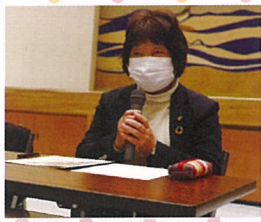
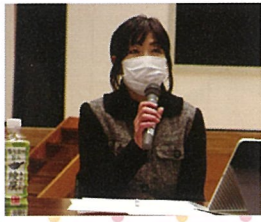
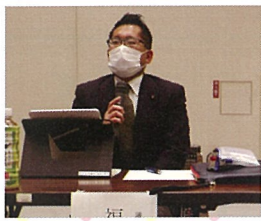
LGBTQ当事者からカミングアウトされた人が自分だけでは抱えきれず、他の人に相談し結果的に当事者を傷つけてしまうことが問題となっている。カミングアウトされた人の気持ちをフォローする取組ができればいいと思う。

LGBTQはZ世代の子どものほうが理解していると感じる。子どもに意見を聞く機会があれば大人はとても勉強になると思う。

多文化共生は知ること・理解することが大きな一歩。外国人にわかりやすいやさしい日本語を様々な文書に導入してほしい。

※発言者の写真と意見は順不同です。

議員との意見交換は初めてで緊張して参加しましたが、打ち解けあった話ができたと感じます。今後も意見交換会を実施したいです。(澤村委員)



## 産後パパ育休を取得しよう

2022年10月からの「改正育児・介護休業法」は、男性が育児に参加しやすい体制づくりが強化されており、新たに「産後パパ育休(出生時育児休業)」が創設されました。産後パパ育休は、子が1歳(最長2歳)までの育児休業制度とは別に取得可能で、子の出生後8週間以内に4週間まで取得可能とされています。

ぜひこの機会に産後パパ育休を取得しましょう。

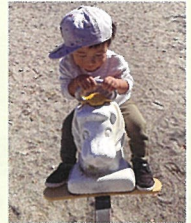
### 男性の育休体験談 さくら市役所 Kさん

昨年10月に2人目の子ども(娘)が生まれ、2週間の休暇を取得しました。結果として、とても貴重な時間を過ごすことができました。

上の子(息子)は当時2歳になったばかり。今までママと離れたことは一度もありませんでしたが、2人目を出産し、ママは4日間の入院。多分、息子は不安だったし、私も不安でした。その不安は的中し、初日から息子は大号泣。何をしても泣き止まず、途方に暮れた結果、息子の大好きなトラクターの動画を永遠と観ていました。2日目以降は徐々に元気を取り戻し、いろんな公園に遊びに行きました。

この4日間はとても疲れたし(こんなこと言ったらママに怒られますが)、イライラした時もありました。でも、振り返ると、あの時に見た息子の不安そうな顔、ママが退院する日の嬉しそうな顔は、私にしか見ることができない貴重な息子の顔だったんじゃないかなと。

ママと娘が退院してからは、より一層忙しくなりましたが、子どもとともに過ごせる時間や子どもが私の相手をしてくれるのもそう長くはないと考えると、子どもと一緒にいる時間の一瞬一瞬をもっと大切にしていきたいと思いました。



## 編集後記

男女共同参画推進委員会では、性別・年齢・国籍・家族構成など多様な立場の人々が誰一人取り残されることのない、心地よい共生社会の実現のため、様々な視点から提言を行っています。市長・副市長、市議の方々との懇談ではとても有意義な意見交換が行われました。人生100年時代、皆がより輝ける社会のために、未来を担う子供たちのために、是非皆さまも推進委員にご参加頂き、日頃の思いを意見提案してみませんか。(委員T・S)

## さくら市 男女共同参画推進委員募集中

私たちと一緒に市の男女共同参画に向けた活動をおこなってみませんか? イベントの企画や情報紙の発行など、誰もが住みやすく明るいさくら市を目指して楽しみながら活動していきましょう! もちろん老若男女問いません。ぜひ、あなたの力を活かしてください!

問 総合政策課 ☎681-1113

◆編集: さくら市男女共同参画推進委員会 ◆発行: さくら市総合政策部総合政策課

〒329-1392 さくら市氏家2771番地

TEL: 028-681-1113 FAX: 028-682-0360 E-mail: sogoseisaku@city.tochigi-sakura.lg.jp